

しんろ

民間企業の底力に期待 ～2016年の年頭所感～

日本銀行福島支店 支店長

中尾根 康宏 (なかおね やすひろ)

年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げますとともに、本年が、皆様にとりまして、素晴らしい1年になりますことを、心よりお祈り申し上げます。

さて、昨年の福島県経済を振り返りますと、震災復旧・復興関連投資が下支えするも、年初から春先にかけて、消費税率引き上げの影響が徐々に薄れ、緩やかな回復を始めました。しかし、夏場以降、中国などの新興国の景気減速の影響もあって、生産を中心に踊り場的な状況で年末を迎えることになりました。

こうした中で、本年3月には、震災後5年間の集中復興期間が終了します。これに伴い、当地の景気を主として支えてきた復旧・復興関連投資も、ある程度の減速を免れないかもしれません。このため、当地の景気の行方は、これまで以上に、生産などの回復度合いに依存することになりそうです。

やや長い目で振り返ってみますと、当地の生産は、リーマンショック後の円高を受けた生産拠点の海外移転や、震災による設備・販路の喪失、さらには風評被害の影響を受けて、たいへん苦しい状況が続いてきました。それでも、2012年以降の為替円安や、関係者による風評被害の払拭努力を受けて、ようやく持ち直しつつあったわけですが、本格的な回復を始める前に、集中復興期間の終了を迎えることになりそうです。

こうした状況に対し、地元自治体や経済界も、懸命な対応を進めてこられました。工場誘致や風評被害の払拭努力に加え、特に、イノベーション・コースト構想、再生エネルギーの推進、医療機器産業の集積は、長い目で見て、当地を支えていく大きな柱に成長していくことが期待されます。もっとも、景気という側面のみを見た場合、こうした努力が具体的な効果を発揮するには、まだ相応の時間が必要です。

このため、期待されるのは、これまで当地経済を長年支えてこられた、数多くの民間企業の踏ん張りです。当地は、自然、歴史、食を含め、豊かな資源に恵まれています。製造業の集積は全国平均を上回り、高い技術力を誇っています。私がお会した企業経営者の皆様は、いずれも進取の気性や技術力・品質へのプライドに富んだ方々でした。もちろん、風評被害などの逆風は、そう簡単に解消されるものではありません。一方で、復旧・復興関連投資等により、多くの企業のバランスシートが改善され、時間的な猶予を得た面もあります。

そういう意味で、今年は、福島県経済にとって、岐路になる年かもしれません。復旧・復興関連投資の減速に伴い、このまましばらく停滞してしまうのか。あるいは、各企業が底力を発揮し、持ちこたえるのか。私は、当地が、そのポテンシャルを存分に発揮し、復興・発展への道筋を着実に進んでいくと確信しています。

私ども日本銀行も、強力な金融緩和を通じて景気を後押しし、デフレからの脱却に向けて取り組んで参りますとともに、引き続き福島県経済の復興と発展に向けて貢献していく所存です。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。